

令和7年度 第1回自治会・町内会意見交換会 概要

【日時】 2025年（令和7年）3月1日（日）14:00～16:00

【場所】 市役所第2～3会議室

【出席者】 各自治会・町内会会長等（21団体、30名）

防災安全課 鈴木課長、相澤課長補佐

市民協働課 栗原課長、小野田係長、北村主事補（記録）

【傍聴者】 なし

【議題】

1 令和8年度総合防災訓練について

防災安全課：鈴木課長、相澤課長補佐

2 各自治会・町内会から活動状況に対する意見交換

- ・PLATEAUを活用した災害に係るシミュレーション、Jアラートについて（ずし3丁目防災の会）
- ・災害時の備品貸し出し、高台避難場所について（逗子桜山ハイツ自治会）
- ・その他

【会議概要】

開会のあいさつ（栗原市民協働課長）

1 令和8年度総合防災訓練について（防災安全課：鈴木課長、相澤課長補佐）

①令和8年度総合防災訓練について（別添資料のとおり説明）

②質疑応答

・これまで各小学校区で行っていた防災訓練はどうなるのか。

小学校区ごとに市の防災訓練は実施しないが、避難所運営訓練については、今までどおり小学校区ごとで実施していただく。（市）

・自治会・町内会として、どのように参加をするのか。

まだ訓練内容については固まっていない。今後、各自治会・町内会の意見を伺ってどのような訓練を行っていくかを考えていきたい。（市）

・自治会・町内会が担う共助で行う部分はどのように考えているのか。

怪我人搬送や初期消火などを考えている。（市）

・在宅避難者に関しては。

家の損壊などなければ、自宅で過ごしていただくことがベストであり、水、食料などは避難所に取りに来ていただくことを想定している。（市）

・通信訓練について、スマホを利用した訓練は今後どのように考えているのか。

これまで2年間、防災訓練で行ってきた。結果を検証し、成果を含めて今後の方策を考えていきたい。（市）

・訓練内容など自治会・町内会からの意見はどのように反映していくのか。

5年ぶりの総合防災訓練となるので、令和8年度については、ある程度行政主導の訓練に

なると考えている。地域の皆さまとお話しできる機会は限られているので、アンケートなどで意見収集し、地域の皆さまと一緒に進めていこうと考えている。(市)

・災害発生から3日間、共助が必要と考える。物資を避難所に取りに行くことが重要となると考える。このような訓練が必要と考えるが。

物資については、市内の防災倉庫から各地区の避難所に配送することになるが、避難所運営訓練などで訓練に取り入れていけたらと考えている。(市)

・共助の3日以降について、以降の備蓄などはどのように考えているか。

市の備蓄だけでは耐えることはできない。4日目以降は国などからプッシュ型で物資の支援がくることを想定している。

2 各自治会・町内会から活動状況に対する意見交換

①防災について

・PLATEAUを活用した逗子市としての地震・津波・土砂災害・火災延焼などの災害被害シミュレーション、災害時の避難行動シミュレーション作成など、災害対策の検討、または実施予定の有無について(ずし3丁目防災の会)

導入には逗子市の3D化したデータが必要であるが、現時点でデータ化されておらず、現時点では活用できない状況。導入コストも実証実験の段階で数百万円、実際に導入すると数千万円の費用負担があることから実現は難しいと考えている。(市)

・Jアラート(国民保護情報)が発令された場合の自治会・町内会・自主防災組織の具体的な対応について(ずし3丁目防災の会)

国民保護情報とは色々種類がある。ミサイル攻撃に関しては窓を閉め、ガス、換気扇をとめ、部屋の中央で身構える。ゲリラ活動に関しては避難所など標的になりやすいため、各家で施錠し避難する。爆破に関しては市から避難誘導の連絡をする。詳しくは県のHPもご確認いただきたいが、共助で対応する事案ではない。(市)

・逗子桜山ハイツ自治会では、地域防災訓練を開催し、消火訓練・炊き出し訓練、マンホールトイレの設置、防災写真展等を行っている。また、近隣の自治会町内会に当自治会の備品・羽釜・かまど・ズンドウ・薪ストーブ等を貸し出し、協力している。また、集会所に毛布などを備蓄することについて検討願いたい。(逗子桜山ハイツ自治会)

②活動について工夫していることについて

・当会は50世帯ほどで構成されているが、自治会の担い手不足や自治会を脱退する世帯に苦慮している。他の自治会・町内会で工夫していることがあれば教えていただきたい。(沼間南台住宅自治会)

・担い手不足については、イベントをはじめとした自治会活動により、若い人を呼び込むことが重要であると考えている。イベントを通じ顔見知りとなり、最終的には防災につなげていくことを狙いとしている。また旗振り活動で子どもの見守りを行っているが、挨拶する子どもは少ないが、出来る子ども中には見受けられる。挨拶をはじめとするコミュニケーションは基本と考えることから、まずはこちらから挨拶することが必要と考えている。(逗子ハイランド自治会)

・以前は逗子3丁目自治会であったが、逗子3丁目防災の会と防災に特化した団体とした。様々な活動を行っているが、会として自発的な行動をしていると周りも手伝ってくれるよ

うになった。まずは行動することが重要と考えている。（逗子3丁目防災の会）

・当会は1,000世帯ほどいるが、減少傾向である。防災士の集まりも子供会の集まりも縮小傾向である。地域が使用しているゴミボックスについても100班位いるが、班の合併など減少している傾向である。今後地域のつながりをどのように維持していくかが課題である。（下桜山交友会）

・役員について、当会は輪番ではなく役員の任期を決めていない。議決権などの権利も横一線である。事情により役員を降りる方もいるが、基本的には同じ方が役員を担っている。（桜山4丁目町内会）

③自治体のデジタル化について

・自治会費は払うが、理事にはなりたくないという意見が多い。役員の負担を減らす目的から、AIを活用し議事録など作成することによって役員を半減化した。連絡には公式LINEを利用している。（逗子グリーンヒル自治会）

・当会も公式LINEを利用しているが、全ての会員が登録しているわけではないため、印刷したものも併用している。

・自治会・町内会のデジタル化は急務である。先日、市民協働課とデジタル推進課と面談し、今後のデジタル化について相談した。（沼間三丁目自治会）

・自治会アプリをはじめとした自治会・町内会のデジタル化については、当市デジタル推進課とともにどのような手法がよいか検討していく。（市）

3 閉会のあいさつ（小野田市民協働係長）